

令和3年度におけるスポーツ推進計画の主な取組み状況について

基本目標Ⅲ スポーツによる賑わいとまちづくりの推進

1 湊酒田つや姫ハーフマラソン大会

- ・大会関係者が安全に安心して参加できるように、種目・参加人数を制限した上で準備を進めてきたが、全国的に新型コロナウイルスの感染者数が急増し、救護及び警備スタッフ等の確保・協力が難しい状況であること、大会開催経費の確保が困難な状態にあることから、8月に大会開催の中止を決定した。

【7月31日まで辞退申し出をしたエントリー者への対応】

→現金書留にて参加料を全額返金

【それ以外のエントリー者への対応】

→大会記念Tシャツや酒田の特産品詰め合わせセット等を発送

エントリー人数

(単位：人)

種目	ランネット	スポーツエントリー	郵便振込	ローソン	ふるさと納税	合計
ハーフ	626	18	46	8	5	703
10 k m	266	7	68	6	2	349
合計	892	25	114	14	7	1,052

(参考) うち辞退者人数

(単位：人)

種目	ランネット	スポーツエントリー	郵便振込	ローソン	ふるさと納税	合計
ハーフ	104	3	6	2	0	115
10 k m	21	0	7	1	0	29
合計	125	3	13	3	0	144

2 みなと酒田トライアスロンおしんレース大会

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続で中止となった(令和4年度大会も既に中止決定済)。

3 市民体育祭

- ・地域を代表して参加する市民が安全に安心して参加できるように、実施種目の見直しや昼食を含まない半日開催の日程にするなど、大会規模縮小を検討して進めてきたが、新型コロナウイルスの感染症の影響により、大会中止を決定した。

4 市巡回駅伝競走大会

- ・大会の開催可否を検討するにあたり、各地区体育振興会長へ参加意向調査を実施した結果、1部チームの参加数が大会開催の判断基準に満たなかったこと、地区のボランティアスタッフの協力体制が確保できなかったことから、大会中止を決定した。

5 東京 2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけとするニュージーランドとの交流

- ・事前キャンプの実施に向けて、トライアスロン・ニュージーランド代表チーム(以下、「TRINZ」と省略)と調整を図ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、ニュージーランド側からの申し出により中止となった。
- ・事前キャンプは中止になったが、TRINZ 関係者に対して酒田の観光名所や食を紹介するオンラインツアーを実施したほか、TRINZ 選手・スタッフへ市内小学校児童・中学校生徒計471人がオンラインで応援メッセージを送る等、オンラインを通じてさまざまな交流を行った。
- ・東京 2020 オリンピック・トライアスロン男子個人レースで、ヘイデン・ワイルド選手(ニュージーランド代表)が見事銅メダルを獲得した。TRINZ としては、2008年の北京オリンピック以来、3大会ぶりのオリンピックでのメダル獲得となった。
- ・酒田市と神奈川県厚木市の高校生が連携してデザイン・制作したあずま袋をオンラインで車いすラグビー・ニュージーランド代表チームに披露し後日贈呈するなど、市内の高校生10人が代表チームとオンラインを通じて交流を行った。

6 東京 2020 オリンピック聖火リレー関係

➤ 東京 2020 オリンピック聖火リレー山形県聖火リレー

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、東京2020オリンピック競技大会と共に、1年延期されたオリンピック聖火リレーは、令和3年3月27日に福島県をスタートし、121日間かけて日本全国47都道府県で開催された。
- ・山形県内では、6月6日と7日の2日間にわたり開催され、本市では7日に第9区間として、日和山公園の千石船前からスタートし、市役所を經由、山居倉庫まで9人の走者が聖火をつないだ。第10区間は県内最終地となるルートで、東北公益文科大学前からスタートし、ゴールの飯森山公園まで、3人の走者が聖火をつないだ(ゴール地点では酒田市・庄内町の小学生20名がサポートランナーとして並走)。
- ・ゴール地点ではセレブレーションが行われ(無観客開催)、山形県での聖火リレーを盛大に締めくくった。2日間にわたって県内をつないだ希望の灯は聖火皿に移され、秋田県へと託された。
- ・ボランティアスタッフとして、コース周辺のルート警備など、各地区自治会や体育振興会、東北公益文科大学生(120名)からご協力をいただき、事故もなく成功裏に終了することができた。

➤ 東京 2020 パラリンピック聖火リレー開催に伴う酒田市採火式

- ・8月12日、東京2020パラリンピック聖火リレー開催に伴う酒田市採火式が日和山で開催された。日和山に建立された「常夜灯」にろうそくを灯し、その火からパラリンピックの成功を祈願して採火した。
- ・8月16日、県内35市町村の火を一つにまとめる聖火フェスティバルが県総合運動公園で開催され、山形県の聖火「やまがた未来の火」として、パラリンピックが開催される東京都へ送られた。